

大田区自立支援協議会 相談支援部会議事録

文責：江口（障がい者総合サポートセンター）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 相談支援部会（第5回）		
(2) 開催日時	平成28年9月14日（水）9:30～12:00		
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室		
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：森山委員）		
	志村 陽子	宮澤 勇	古怒田 幸子
	小野 英次郎	岡田 純子	平井 有希子
	茂野 俊哉	田中 隆博	今崎 牧生
	内海 玄宗	大窪 恒	中越 祐一
	区職員出席者		
	山下係長（大森地域福祉課） 友成係長（調布地域福祉課） 小川係長（蒲田地域福祉課） 江口係長（糀谷・羽田地域福祉課） 鈴木係長（大森地域健康課） 梅貫係長（調布地域健康課） 井上係長（上池台障害福祉会館）		
関係者			
林 倫子（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）			
事務局出席者			
障がい者総合サポートセンター：江波戸係長、星、齋藤（愛）			
(5) 内容・要旨	1、2は省略 3、確認事項 ○前回の議事録・意見出しカード確認 ○8月19日全体討議会報告 ・各部会の情報共有は必要。協議会の役割について ・個別支援会議と自立支援協議会との関係を再度確認が必要では。 ・10月6日 13:30～全体会に向けての運営会議を予定。 4、本日の議題 「基幹型・さぼーとぴあを含めた相談支援体制整備に向けた検討②」 ○基幹相談支援センターの役割についての説明（別紙資料） ・専門的指導・助言についてケース対応に時間を要している。外部への連携に至らない状況もある。 ・地域移行支援も知的障害者への支援が現状では中心となっている。精神障害者への対応も必要であるが、現状では事業所と協力して行っていく状況。 ・サポートセンターに計画相談を依頼しても断られる状況もある。計画相談の事業者がいない状況で一緒に連携して対応できるケースについては、他の事業所に引き継いでいくことできるのではないか。 ○基幹型・さぼーとぴあへの意見・要望 ・計画相談を受ける事業所について全体のコーディネーターが必要である。 ・計画相談の質を点検するしくみも必要ではないか。 ・基幹相談支援の役割・機能も含め、現状の把握にとどまり課題の整理まで至		

っていない状況もある。

- ・相談事業所に対しての協働してもらう雰囲気醸成、基幹相談支援としてのスーパービジョンが見えにくい状況がある。
- ・調整機能については、「相談支援事業所連絡会おおた」の連絡・調整機能を活用することで、連携および支援が可能となるのではないかな。
- ・精神障害の現状では、計画相談の法改正の周知など区民への理解と周知が遅れている。周知のための研修会など参加の促しは引き続き必要だと思う。
- ・客観的な分析をどこが担うのか、区はさぼーとぴあを支援してきたが、今後区民、地域福祉課、地域健康課等へつなげていく支援が必要となる。
- ・視点、課題、地域ごとにそれぞれつながっていくネットワークの必要性もあるのではないかな。
- ・シンクタンクとしてのさぼーとぴあの蓄積が大切になってくる。
- ・さぼーとぴあでできること含め、全体で応援、協力できる体制をつくるべき。
- ・区内の特別支援学校ではさぼーとぴあの情報など周知が不足している。
- ・基幹相談支援センターと相談支援事業所の役割分担、明確化が必要。
- ・支援計画においても関わる支援者が多いほうが様々な視点が加わり、当事者本人にとっても望ましいと言える。

○まとめの方向として

- ・基幹型としての役割を整理し、相談支援事業所との伴走型の連携を構築する。
- ・「相談支援事業所連絡会おおた」のネットワーク機能を活用して、計画相談を受ける事業所の情報交換、調整、対応可能かどうかの情報等の整理および集約ができるのではないかな。
- ・さぼーとぴあが支援しているケースを相談支援事業所に円滑に移行できるしくみの構築なども必要。
- ・具体的にどのような事例があり、解決に結びついたか、相談事例の集積についてはさぼーとぴあが取り組みやすいと言える。
- ・さぼーとぴあのイメージとしては相談支援版の「ER＝救急救命室」であり、必要に応じて専門機関につなぐ役割がある。
- ・安定して問題が解決したケースであれば地域の支援機関につないでいく方向性も見えてくる。
- ・基幹型の役割を考え、計画相談のトリアージ（優先順位付け）の工夫など、基幹型＝ERの役割がイメージとしてわかりやすいのではないかな。

○上記の意見を踏まえ、あり方を検討し中間報告を行う。

●次回日程 日時 10月5日(水) 9時30分から12時
場所 さぼーとぴあ 5階多目的室